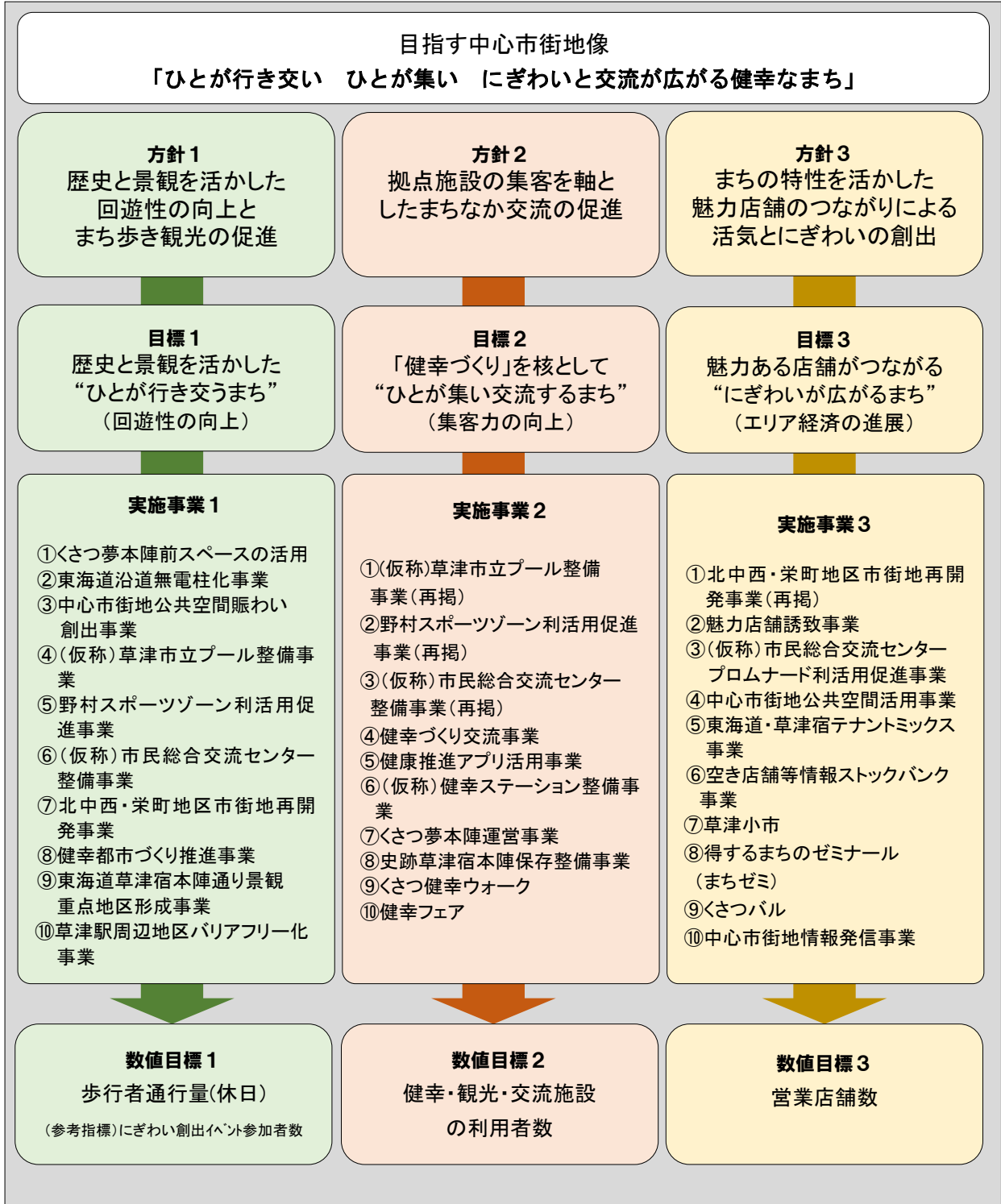


3. 中心市街地の活性化の目標

[1] 中心市街地活性化の目標

目指す中心市街地像や中心市街地活性化の方針に基づいて、活性化の目標とその指標について次のとおり設定する。



○ 目標

目標1：歴史と景観を活かした“ひとが行き交うまち”（回遊性の向上）

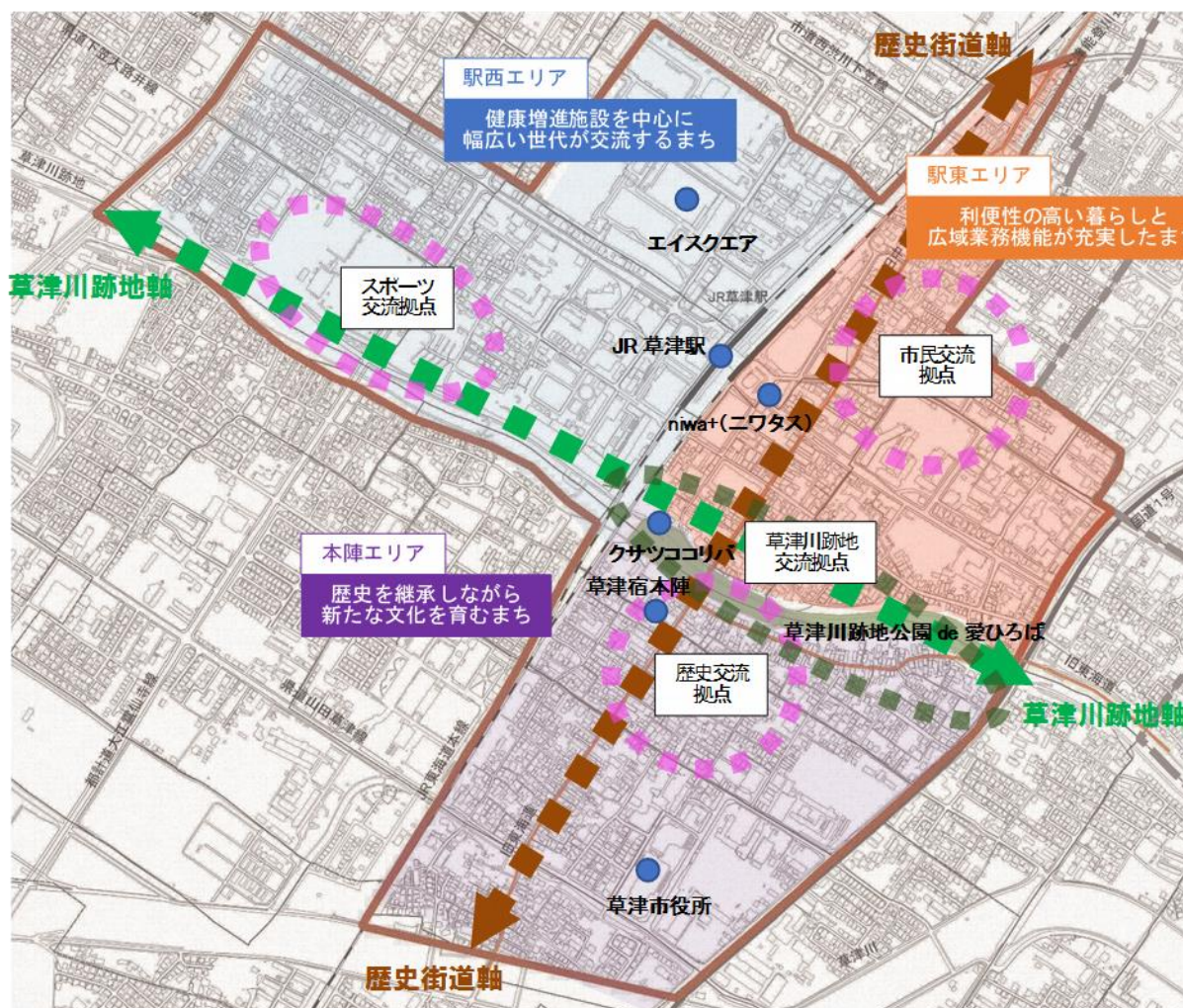
歴史的なまちなみを活かした景観整備や公共スペースでのイベント開催などにより、まちの魅力を高めることで、エリア間の回遊性を向上し、まち歩き観光や買い物、散歩などひとが行き交うまちを目指す。

目標2：「健幸づくり」を核として“ひとが集い交流するまち”（集客力の向上）

健幸づくりの拠点となる施設を中心に、中心市街地が市民活動やコミュニティ活動の拠点として、幅広い世代を越えて利用されるとともに、集客拠点の活用と各主体の連携によりにぎわいと交流が促進されるまちを目指す。

目標3：魅力ある店舗がつながる“にぎわいが広がるまち”（エリア経済の進展）

地域のニーズに応じた魅力的な商業機能と各エリアの特性を活かした個性的で魅力のある店舗の出店を促進することで、エリア経済の活性化を促し、活気とにぎわいが創出されるまちを目指す。



中心市街地の活性化に向けた3つの目標を達成していくため、駅東エリア・駅西エリア・本陣エリアの各エリアが持つ特性とそれぞれの拠点を活用した事業を実施するとともに、草津川跡地軸と歴史街道軸の2つの軸を中心として各エリアを結びつける事業の展開を図る。

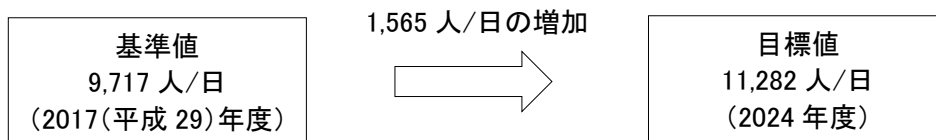
[2] 計画期間

2019年4月～2025年3月（6年間）

[3] 目標指標の設定の考え方

(1) 目標1：歴史と景観を活かした“ひとが行き交うまち”（回遊性の向上）

目標指標1：歩行者通行量（休日）（人/日）

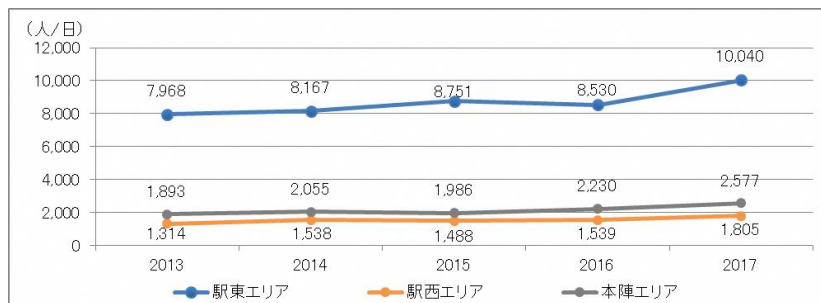


① 設定根拠

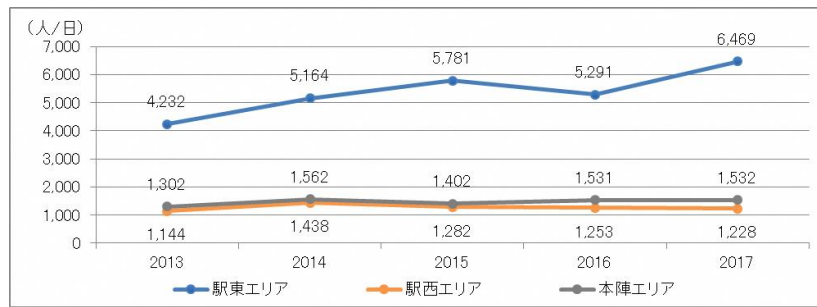
「歴史と景観を活かした回遊性の向上とまち歩き観光の促進」を測る指標として、中心市街地各エリア内の主要地点8地点の歩行者通行量を設定する。前期計画では、歩行者通行量を中心市街地エリア内15地点で、毎年8月の平日と休日各1日ずつ計測しており、その中でも事業効果が最もよく表れる次ページの表の①～⑥の6地点の合計を指標としていた。本計画では、①～⑥の6地点に前期計画期間中に整備した草津川跡地公園 de 愛ひろば（⑦）と、まち歩き観光の中心となる本陣エリアにある草津宿街道交流館前（⑧）を追加し、合計8地点で計測する。

前期計画においては、平日の歩行者通行量を設定しているが目標数値を達成している。また、前期計画の6地点と新たに追加した草津宿街道交流館前の計7地点の過去5年間の増加率は、駅東エリア26.0%、駅西エリア37.4%、本陣エリア36.1%と各エリアで同程度の数値になっている。一方、同7地点の休日の歩行者通行量の過去5年間の増加率をみると、駅東エリアで52.9%であるのに対し、駅西エリアでは7.3%、本陣エリアでは17.7%と伸び悩んでおり、最も多かった2014（平成26）年と比較するとそれぞれ14.6%、1.9%の減少となっている。

本計画では「まち歩き観光」として主に休日の集客や回遊性の向上を図ることを方針として掲げていることから、休日の歩行者通行量を目標指標として設定する。



中心市街地内の平日の歩行者通行量の推移（⑦de 愛ひろば本陣側堤防を除く7地点）



中心市街地内の休日の歩行者通行量の推移(⑦de 愛ひろば本陣側堤防を除く7地点)

| エリア | 調査地点 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|-----|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 駅東 | ①TOWER・111 (エントランス) | 1,285 | 1,287 | 1,750 | 1,809 | 1,946 |
| 駅東 | ②TOWER・111 (喫煙所側) | 1,662 | 2,339 | 2,317 | 2,132 | 2,346 |
| 駅東 | ③旧ピーススポーツ | 951 | 1,133 | 1,234 | 1,072 | 1,259 |
| 本陣 | ④草津まちづくりセンター | 943 | 1,168 | 1,017 | 1,138 | 1,190 |
| 駅西 | ⑤大阪ガス | 1,144 | 1,438 | 1,282 | 1,253 | 1,228 |
| 駅東 | ⑥草津川跡地 (アーバンホテル側) | 334 | 405 | 480 | 278 | 918 |
| 本陣 | ⑦de愛ひろば 本陣側堤防 | — | — | — | — | 488 |
| 本陣 | ⑧草津宿街道 交流館前 | 359 | 394 | 385 | 393 | 342 |
| | | 6,678 | 8,164 | 8,465 | 8,075 | 9,717 |



中心市街地内8地点の休日の歩行者通行量の推移

② 目標数値の設定

目標指標となる8地点の歩行者通行量を、駅東・駅西・本陣エリアに分け、エリアごとにおおむね5年間の推移を基に回帰分析を用いて推計値を算出したところ、2017(平成29)年から2023年の増加率は駅東エリアでは14.1%、駅西エリアでは6.8%、本陣エリアでは5.3%と推計される。

目標数値は、3エリアの将来推計値に各事業実施効果を合わせたものを設定する。

ア 2023年の将来推計値



中心市街地内8地点の休日の歩行者通行量の将来推計

(注：本陣エリアについては2017（平成29）年にde愛ひろば本陣側堤防の調査地点488人が、草津川跡地公園の整備完了に伴い新たに追加されているため、将来推計にあたってはこの値を除く2016（平成28）年までの数値で推計を行い、各年の推計値にde愛ひろば本陣側堤防での歩行者通行量として見込まれる490人を加えている。）

(ア) 駅東→7,380人/日（2017（平成29）年6,469人/日比 14.1%増）

(イ) 駅西→1,312人/日（2017（平成29）年1,228人/日比 6.8%増）

(ウ) 本陣→2,128人/日（2017（平成29）年2,020人/日比 5.3%増）

全体→10,820人/日（(ア)+(イ)+(ウ) 2017（平成29）年9,717人/日の11.4%増）

イ 事業実施効果

| 事業 | 算定内容 | 実施効果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|------|------|-------|-------|-----|------|------|-----|------|------|-----|-------|-----|-----|--------|--|------|--------|--|-----|-----|
| (ア) くさつ 夢本陣 前ス ペース活 用事業 | <p>くさつ夢本陣前のスペースで定期的なイベント実施など活用を図る事業を実施する。2018（平成30）年にこのスペースで不定期開催されたイベントの来場者数は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>イベント</th> <th>来場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月13日</td> <td>餅つき大会</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>3月3日</td> <td>ひな祭り</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>7月7日</td> <td>七夕祭り</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>9月22日</td> <td>観月祭</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計来場者数</td> <td>134人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均来場者数</td> <td>34人</td> </tr> </tbody> </table> <p>この事業では定期的な活用を図るため、現在の2倍の来場者数である68人を目指す。新たなこの取組により増加する歩行者通行量は</p> $68人 \times 28.4\% (*1) = \underline{19人/日の増加}$ <p>*1：2017（平成29）年に実施した市民アンケートによると、「現在の中心市街地の満足度」について「歩いて、楽しく回遊できるまちである」に「思う」「やや思う」と回答した人の割合は28.4%</p> | 開催日 | イベント | 来場者数 | 1月13日 | 餅つき大会 | 50人 | 3月3日 | ひな祭り | 20人 | 7月7日 | 七夕祭り | 34人 | 9月22日 | 観月祭 | 30人 | 合計来場者数 | | 134人 | 平均来場者数 | | 34人 | 19人 |
| 開催日 | イベント | 来場者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1月13日 | 餅つき大会 | 50人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3月3日 | ひな祭り | 20人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月7日 | 七夕祭り | 34人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月22日 | 観月祭 | 30人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計来場者数 | | 134人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均来場者数 | | 34人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (イ) 中心市 街地公 共空間 賑わい 創出事 業 | <p>中心市街地の広場や公共空間において、イベント開催などにより各拠点の魅力を高めることで、回遊性の向上を図る。2017（平成29）年に開催された本事業での参加者数は5つのイベント（開催日計6日間）で合計8,315人（1日あたり1,386人）であった。様々な年齢層をターゲットにしてイベントを実施することで、幅広い世代に公共空間とその使い方を知ってもらいきっかけになるため、新たなイベント開催や人気店のブース出店誘致により10%の参加者増を目指す。</p> <p>イベント参加者数が10%増加するとその分歩行者通行量も増加すると考えられ、</p> | 78人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1,386人 × 10% × 56%(*1) = 78人/日の増加

*1: 2018(平成30)年夏に中心市街地公共空間賑わい創出事業で開催されたイベントでの来場者アンケートによると、中心市街地でのイベントへ徒歩で来場した割合は56%

(ゆ) くさつシティアリーナ整備(前期計画事業)

2019年度供用開始予定のくさつシティアリーナの年間利用者数は、ネーミングライツ募集要項の想定年間利用者数より180,000人/年であり、事業実施効果による年間利用者数の増加は

180,000人/年 - 2017(平成29)年度の野村運動公園(体育館)利用者数58,317人/年 = 121,683人/年

これより実施効果による1日の利用者数は

121,683人/年 ÷ 開館日数359日 = 339人/日

153人

1日の施設利用者数のうち、歩行者通行量調査地点の通過する割合を調査地点通過割合として設定する。設定の際には、草津川跡地公園の整備前から整備後の各調査地点の歩行者通行量の増減実績を参考とし、以下の値を定めた。

<参考 草津川跡地公園整備前と後の歩行者通行量の比較による調査地点通過割合の算出>

草津川跡地公園 de 愛ひろばの1日あたりの利用者数

610,000人/年 ÷ 365日 = 1,671人/日・・・①

| エリア | 事業位置と調査地点の関係 | 調査地点 | 2016 | 2017 | 2017-2016増減② | ①に対する②の割合③ |
|-----|--------------|-------------------|-------|-------|--------------|------------|
| 駅東 | エリア内 | ①Tower111(エントランス) | 1,809 | 1,946 | 137 | 8.2% |
| 駅東 | エリア内 | ②Tower111(喫煙所) | 2,132 | 2,346 | 214 | 12.8% |
| 駅東 | 他エリア | ③旧ピースポーツ | 1,072 | 1,259 | 187 | 11.2% |
| 本陣 | エリア内 | ④草津まちづくりセンター | 1,138 | 1,190 | 52 | 3.1% |
| 駅西 | 他エリア | ⑤大阪ガス | 1,253 | 1,228 | -25 | -1.5% |
| 駅東 | 事業実施位置周辺 | ⑥草津川跡地(アーバンホテル側) | 278 | 918 | 640 | 38.3% |
| 本陣 | 事業実施位置周辺 | ⑦de愛ひろば本陣側堤防 | - | 488 | - | 29.2%(*1) |
| 本陣 | 他エリア | ⑧草津宿街道交流館前 | 393 | 342 | -51 | -3.1% |

*1: ①に対する2017の割合

事業実施位置周辺、事業実施位置エリア内、事業実施他エリアのそれぞれの③の割合の平均より、以下のように調査地点通過割合を設定する。

<調査地点通過割合>

事業実施位置周辺 35%

事業実施位置エリア内 10%
事業実施位置他エリア 5%

1日の利用者数に、各調査地点通過割合を乗じ、以下のとおりくさつシティアリーナ整備による歩行者通行量の増加分を求める。

| エリア | 調査地点 | 事業位置からの距離 | 調査地点通過割合① | 通過数見込み② |
|------|----------------------|-----------|-----------|---------|
| 駅東 | ①Tower111(エントランス) | 他エリア | 5% | 17人 |
| 駅東 | ②Tower111(喫煙所) | 他エリア | 5% | 17人 |
| 駅東 | ③旧ビースポーツ | 他エリア | 5% | 17人 |
| 本陣 | ④草津まちづくりセンター | 他エリア | 5% | 17人 |
| 駅西 | ⑤大阪ガス | エリア内 | 10% | 34人 |
| 駅東 | ⑥草津川跡地 (アーバンホテル側) | 他エリア | 5% | 17人 |
| 本陣 | ⑦de愛ひろば本陣側堤防 | 他エリア | 5% | 17人 |
| 本陣 | ⑧草津宿街道交流館前 | 他エリア | 5% | 17人 |
| 整備効果 | | | | 153人 |

よって、くさつシティアリーナ整備により 153人/日の増加。

(エ)
(仮称)
草津市
立プー
ル整備
事業

新たに整備する(仮称)草津市立プールは、(仮称)草津市立プール整備基本計画より年間施設利用者69,000人/年の計画となっている。これにより1日の利用者数は
 $69,000 \text{人/年} \div \text{開館日数} 359 \text{日} = 192 \text{人/日}$
くさつシティアリーナと同様、1日の利用者数に、各調査地点通過割合を乗じ、以下のとおり(仮称)草津市立プール整備事業による歩行者通行量の増加分を求める。

| エリア | 調査地点 | 事業位置からの距離 | 調査地点通過割合① | 通過数見込み② |
|------|----------------------|-----------|-----------|---------|
| 駅東 | ①Tower111(エントランス) | 他エリア | 5% | 10人 |
| 駅東 | ②Tower111(喫煙所) | 他エリア | 5% | 10人 |
| 駅東 | ③旧ビースポーツ | 他エリア | 5% | 10人 |
| 本陣 | ④草津まちづくりセンター | 他エリア | 5% | 10人 |
| 駅西 | ⑤大阪ガス | エリア内 | 10% | 19人 |
| 駅東 | ⑥草津川跡地 (アーバンホテル側) | 他エリア | 5% | 10人 |
| 本陣 | ⑦de愛ひろば本陣側堤防 | 他エリア | 5% | 10人 |
| 本陣 | ⑧草津宿街道交流館前 | 他エリア | 5% | 10人 |
| 整備効果 | | | | 89人 |

よって、(仮称)草津市立プール整備事業により 89人/日の増加。

(オ)
北中西

本事業により、高層棟に分譲住宅が265戸、低層棟にサービス付き高齢者向け住宅が39戸整備される。新たに高層棟に増える住民は

89人

70人

・栄町地区市街地再開発事業

265戸 × 2.2人^(*1) = 583人

低層棟のサービス付き高齢者向け住宅は

39戸 × 1.2人^(*2) = 47人

と見込まれ、このうち事業実施箇所を歩くと想定される人数は

(583人 + 47人) × 28.3%^(*3) × 76.1%^(*4) = 136人

が事業実施箇所を歩くと考えられる。

- *1：中心市街地エリアの過去5年間の世帯数と人数より算出した1世帯の平均人数
- *2：近隣の単身者用と2人用の居室があるサービス付き高齢者向け住宅より算出した1世帯の平均人数
- *3：2017(平成29)年に実施した市民アンケートによると、「休日などに市内で遊びに行く場所はどこですか?」に対して、大路区の市民が「中心市街地」と回答した割合は28.3%
- *4：2017(平成29)年に実施した市民アンケートによると、「中心市街地までの交通手段は何ですか?」に対して、大路区の市民が「徒歩」と回答した割合は76.1%

本事業により、実施箇所には136人/日増加すると考えられ、くさつシティアリーナと同様、1日の利用者数に、各調査地点通過割合を乗じ、以下のとおり北中西・栄町地区市街地再開発事業による歩行者通行量の増加分を求める。

| エリア | 調査地点 | 事業位置からの距離 | 調査地点通過割合① | 通過数見込み② |
|------|----------------------|-----------|-----------|---------|
| 駅東 | ①Tower111(エントランス) | エリア内 | 10% | 14人 |
| 駅東 | ②Tower111(喫煙所) | エリア内 | 10% | 14人 |
| 駅東 | ③旧ピースポーツ | 他エリア | 5% | 7人 |
| 本陣 | ④草津まちづくりセンター | 他エリア | 5% | 7人 |
| 駅西 | ⑤大阪ガス | 他エリア | 5% | 7人 |
| 駅東 | ⑥草津川跡地 (アーバンホテル側) | 他エリア | 5% | 7人 |
| 本陣 | ⑦de愛ひろば本陣側堤防 | 他エリア | 5% | 7人 |
| 本陣 | ⑧草津宿街道交流館前 | 他エリア | 5% | 7人 |
| 整備効果 | | | | 70人 |

よって、北中西・栄町地区市街地再開発事業により、70人/日の増加

(か) 本事業では、既存施設の市立まちづくりセンターと人権センター等が移設され、新たに子育て支援機能や多世代交流機能、地域力発信機能等が設けられ市民活動の新たな拠点となることが想定される。

新たな機能による増加分見込みは40,000人/年である。

本事業による増加分は類似施設(つどいの広場、草津市社会福祉協議会)の入込客数を参考に算出する。

53人

| 主な機能 | 利用者数 | 積算根拠 | 類似施設など |
|---------|-----------|---------------|-----------------|
| 子育て支援機能 | 12,000人/年 | 40人/日×開館日300日 | つどいの広場「ぼかぼかタウン」 |
| 多世代交流機能 | 3,000人/年 | 10人/日×開館日300日 | 20～30組/日 |
| コンベンション | 15,000人/年 | 500人×3日×10回 | |
| 社会福祉協議会 | 10,000人/年 | | 社協聞き取り |
| 計 | 40,000人/年 | | |

事業実施効果による1日あたりの施設利用者数は

$$40,000 \text{ 人/年} \div \text{開館日数 } 359 \text{ 日} = 111 \text{ 人/日}$$

くさつシティアリーナと同様、1日の利用者数に、各調査地点通過割合を乗じ、以下のとおり（仮称）市民総合交流センター整備事業による歩行者通行量の増加分を求める。

| エリア | 調査地点 | 事業位置からの距離 | 調査地点通過割合① | 通過数見込み② |
|------|----------------------|-----------|-----------|---------|
| 駅東 | ①Tower111(エントランス) | 他エリア | 5% | 6人 |
| 駅東 | ②Tower111(喫煙所) | 他エリア | 5% | 6人 |
| 駅東 | ③旧ピースポーツ | エリア内 | 10% | 11人 |
| 本陣 | ④草津まちづくりセンター | 他エリア | 5% | 6人 |
| 駅西 | ⑤大阪ガス | 他エリア | 5% | 6人 |
| 駅東 | ⑥草津川跡地 (アーバンホテル側) | 他エリア | 5% | 6人 |
| 本陣 | ⑦de愛ひろば本陣側堤防 | 他エリア | 5% | 6人 |
| 本陣 | ⑧草津宿街道交流館前 | 他エリア | 5% | 6人 |
| 整備効果 | | | | 53人 |

よって、（仮称）市民総合交流センター整備事業により、53人/日の増加。

その他の効果が見込まれる事業

- 東海道沿道無電柱化事業
- 野村スポーツゾーン利活用促進事業
- 宿場街道景観形成事業
- 東海道草津宿本陣通り景観重点地区形成事業
- 草津駅周辺バリアフリー化整備事業
- 草津駅西口自転車駐車場整備事業
- 草津市西口公衆便所更新事業
- （仮称）草津駅東第2自転車駐車場整備事業
- 市道宮町渋川線他管理用カメラ整備事業
- 東海道草津宿拠点整備事業

事業実施による増加分

$$(ア) 19 \text{ 人/日} + (イ) 78 \text{ 人/日} + (ウ) 153 \text{ 人/日} + (エ) 89 \text{ 人/日} + (オ) 70 \text{ 人/日} + (カ) 53 \text{ 人/日} = 462 \text{ 人/日}$$

増加分

462人

<数値目標>

$$ア \text{ 将来推計値 } 10,820 \text{ 人/日} + \text{イ 増加を見込む分 } 462 \text{ 人/日} = 11,282 \text{ 人/日}$$

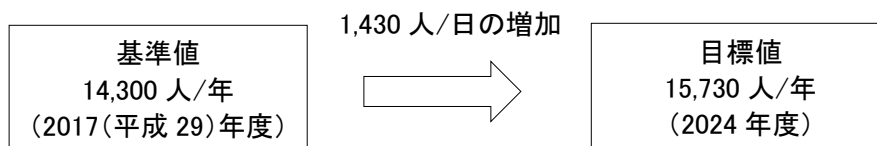
【令和6年3月変更時の状況】

令和4年度フォローアップでは、目標指標1「歩行者通行量（休日）11,282人/日」の目標値に対し、最新値11,010人/日の状況であり、基準値は上回ったが、新型コロナウイルス感染症の行動制限の緩和や拠点整備により、目標値の達成には至っていない状況である。主要事業を補完するために、以下の事業を追加することで、目標指標1の達成を目指す。

東海道草津宿拠点整備事業（事業内容：本陣エリアの既存建物の改修による地域交流拠点の整備）

参考指標：にぎわい創出イベント参加者数（人/年）

「歴史と景観を活かした回遊性の向上とまち歩き観光の推進」に向けては、観光の目的となるようなイベント等ソフト事業の充実が必要である。ただし、開催実績が浅く、過去のデータに乏しいことから、本指標は歩行者通行量を補完する参考指標として設定する。



① 設定根拠

観光施設やその周辺での魅力向上・充実を測る指標として、過去に測定実績もある以下の9つのイベントの参加者数を設定する。

| にぎわい創出イベント | 2017 (H29) |
|------------------|---------------|
| わくわくサマーランド | 2,700 |
| アートフェスタくさつ | 2,700 |
| 星降る映画館 | 800 |
| 草津小市 | 450 |
| 健幸フェア | 1,300 |
| くさつ健幸ウォーク | 600 |
| 草津まちイルミ(スタンプラリー) | 1,385 |
| 春休みキッズフェスティバル | 4,000 |
| ガーデンバーナイト | 365 |
| 合計 | 14,300 |

中心市街地内の観光イベントの参加者数

② 目標数値の設定

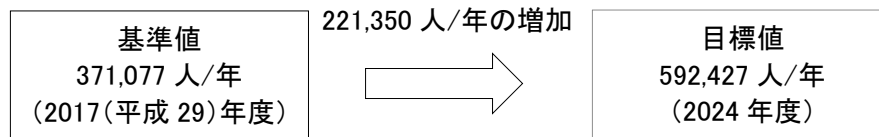
以上のような中心市街地におけるにぎわい創出イベントの実施を充実させ、新たなイベント開催や人気店のブース出店誘致により、基準年から10%程度の参加者数の増加を図っていく。

<数値目標>

$$2017（平成29）年基準値 14,300人/年 \times 110\% = 15,730人/年$$

(2) 目標2：「健幸づくり」を核として“ひとが集い交流するまち”（集客力の向上）

目標指標2：健幸・観光・交流施設の利用者数（人/年）



① 設定根拠

「拠点施設の集客を軸としたまちなか交流の促進」に向けては、大規模なスポーツ施設整備を中心とした「集客拠点」の形成を核に、観光施設や交流施設の機能強化により各拠点の集客性を高めることが必要である。

前期計画では、福祉・文化・交流の11施設の利用者数を計測していた。本計画では、2016（平成28）年度より市として健幸都市づくりに取り組んでいること、また、歴史と景観を活かした回遊できる環境の整備が課題であることから、以下の健幸・観光・交流施設7施設と今後整備予定の（仮称）草津市立プールを加えた8施設の年間施設利用者数を設定する。

※野村運動公園(体育館)について、くさつシティアリーナ供用開始後は、くさつシティアリーナの利用者数を計測する。

※市立まちづくりセンターと人権センターについて、(仮称)市民総合交流センター供用開始後は、(仮称)市民総合交流センターの利用者数を計測する。

| 施設 | | H24 (2012) | H25 (2013) | H26 (2014) | H27 (2015) | H28 (2016) | H29 (2017) |
|----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 健幸 | 野村運動公園(体育館) | 57,327 | 74,306 | 58,724 | 75,162 | 52,262 | 58,317 |
| | 野村運動公園(グラウンド) | 94,758 | 98,037 | 115,258 | 242,652 | 71,654 | 111,336 |
| | (仮称)草津市立プール | — | — | — | — | — | — |
| | 小計 | 152,085 | 172,343 | 173,982 | 317,814 | 123,916 | 169,653 |
| 観光 | 草津宿本陣 | 18,944 | 16,791 | 19,649 | 18,803 | 18,694 | 18,050 |
| | 草津宿街道交流館 | 13,871 | 13,539 | 14,422 | 14,545 | 14,635 | 15,019 |
| | くさつ夢本陣 | 22,832 | 20,166 | 19,026 | 16,930 | 17,475 | 17,064 |
| | 小計 | 55,647 | 50,496 | 53,097 | 50,278 | 50,804 | 50,133 |
| 交流 | 市立まちづくりセンター | 103,053 | 115,974 | 133,261 | 138,167 | 150,032 | 142,566 |
| | 人権センター | 7,797 | 8,334 | 7,789 | 7,410 | 7,135 | 8,725 |
| | 小計 | 110,850 | 124,308 | 141,050 | 145,577 | 157,167 | 151,291 |
| 合計 | | 318,582 | 347,147 | 368,129 | 513,669 | 331,887 | 371,077 |

中心市街地内の健幸・観光・交流施設と、施設利用者数の推移

※本市の「健幸」の概念は、個人の健康づくりだけでなく、地域ぐるみでの健康づくりやインフラも含めた歩きたくなるまちづくりなど幅広いものだが、本項では「健幸」施設を上記3施設と定義する。

② 目標数値の設定

2017（平成29）年の基準値に、事業実施によって増加すると見込まれる施設利用者数を加算したものを目標数値とする。

| 事業 | 算定内容 | 実施効果 |
|----------------------|---|-----------|
| 健幸 | (ア) (仮称) 草津市立プール整備事業 新たに整備する(仮称)草津市立プールは、(仮称)草津市立プール整備基本計画より年間施設利用者 69,000 人/年の計画となっている。2024年8月供用開始予定であり、初年度は $69,000 \text{ 人} \times 8 \text{ か月} / 12 \text{ か月} = 46,000 \text{ 人}$ となり、本事業によって <u>46,000 人/年の増加</u> 。 | 46,000 人 |
| 野村スポーツゾーン利活用促進事業 | (イ) パブリックビューイング、スポーツ教室の開催、スポーツ選手との交流、大学との連携事業の実施、周辺飲食店との連携(健康メニューの開発・提供)、健康関連産業の見本市の開催など活性化につながる取組を展開する野村スポーツゾーン利活用促進事業により、グラウンドの利用者数については、 パブリックビューイング 1,750 人(*1) スポーツ教室 960 人(*2) スポーツ選手との交流 300 人(*2) 大学との連携事業 1,100 人(*2) 周辺飲食店との連携 1,100 人(*2) 健康関連産業の見本市 1,750 人(*1) と見込み、本事業よって <u>6,960 人/年の増加</u> 。 *1: くさつシティアリーナの最大観客席数 3,500×0.5 より算出 *2: 2018(平成30)年度市内で開催された類似イベントより算出 | 6,960 人 |
| くさつシティアリーナ整備(前期計画事業) | (ウ) 2019年度供用開始予定のくさつシティアリーナの年間利用者数見込はネーミングライツ募集要項の想定年間利用者数より 180,000 人/年である。本事業の実施により $180,000 \text{ 人/年} - 2017 \text{ (平成29) 年度の野村運動公園(体育館) 利用者数 } 58,317 \text{ 人/年}$ $= \underline{121,683 \text{ 人/年の増加}}$ | 121,683 人 |
| 観光 | (エ) くさつ夢本陣前スペース活用事業 目標1のイ(ア)のとおり、本事業により、イベントでの平均来場者数 68 人をめざすとともに、毎週末のイベント開催を目指す。これにより年間のイベント来場者数は $68 \text{ 人} \times 52 \text{ 回} = 3,536 \text{ 人}$ 事業実施効果による年間利用者数の増加は $3,536 \text{ 人} - 2018 \text{ (平成30) 年のイベント来場者数 } 134 \text{ 人}$ $= \underline{3,402 \text{ 人/年の増加}}$ | 3,402 人 |

| | | | |
|---|---------------------------|---|------------------|
| | (オ) 史跡草津宿本陣保存整備事業 | 現存する草津宿本陣は、全国的にみても有数の文化財的価値を持つ歴史遺産として国史跡に指定されていることから、保存活用計画等を策定するとともに、公開施設の耐震補強工事や中・西地区の整備工事を行い、2017年(平成29年)度の草津宿本陣の利用者数の1割増加を目指す。 $18,050 \text{ 人} \times 10\% = 1,805 \text{ 人/年の増加}$ | 1,805 人 |
| 交流 | (カ) (仮称)市民総合交流センター整備事業 | 本計画期間中に整備される(仮称)市民総合交流センターには、既存施設の市立まちづくりセンターと人権センター等が移設され、新たに子育て支援機能や多世代交流機能、地域力発信機能等が設けられ市民活動の新たな拠点となることが想定される。 新たな機能による見込みは <u>40,000 人/年の増加</u> 。 | 40,000 人 |
| | (キ) 健幸づくり交流事業 | (仮称)市民総合交流センター内において、合同特定健診や料理教室の開催、健康機器の設置による日常的な健康測定、保健師による健康相談など年間を通じた健幸づくりと市民交流の促進を図るものである。 (仮称)市民総合交流センターの会議室の平均は 63 m^2 (特大会議室を除く)の予定であり、定員30人程度である。これらの会議室や調理室で週に1回事業が開催されると想定すると、本事業による増加分は $30 \text{ 人/回} \times 50 \text{ 週} = 1,500 \text{ 人/年}$ | 1,500 人 |
| その他の効果が見込まれる事業 ○草津アミカホールトイレバリアフリー化工事 ○(仮称)健幸ステーション整備事業 ○健康推進アプリ活用事業 | | | |
| 事業実施による増加分 (ア) 46,000 人/年 + (イ) 6,960 人/年 + (ウ) 121,683 人/年 + (エ) 3,402 人/年 + (オ) 1,805 人/年 + (カ) 40,000 人/年 + (キ) 1,500 人/年 = 221,350 人/日 | | | 増加分 221,350 人 |

<数値目標>

2017(平成29)年基準値 371,077 人/年 + 増加を見込む分 221,350 人/年 = 592,427 人/年

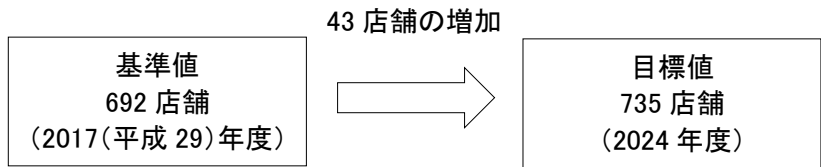
【令和6年3月変更時の状況】

令和4年度フォローアップでは、目標指標2「健幸・観光・交流施設の利用者数(人/年)592,427人/年」の目標値に対し、最新値658,054人/年であり、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、対象施設でのイベント等が実施されるようになったことで、利用者数が増加した状況である。様々な自粛制限の反動による一時的な増加に留まらないよう、(仮称)草津市立プール整備事業を实

施すること等により、引き続き目標値の達成を目指すものであり、令和5年度目標数値をそのまま令和6年度目標数値とする。

(3) 目標3：魅力ある店舗がつながる“にぎわいが広がるまち”

目標指標3：営業店舗数

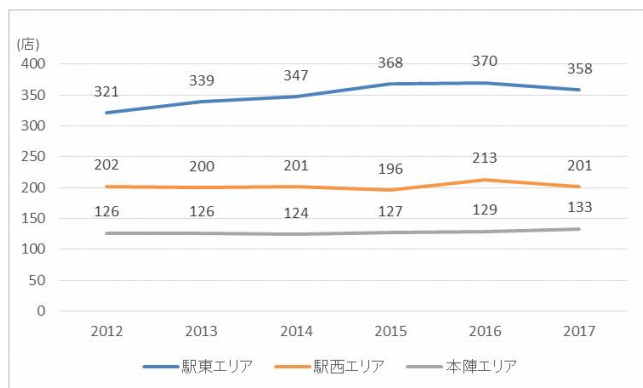


① 設定根拠

「まちの特性を活かした魅力店舗のつながりによる活気とにぎわいの創出」の実現に向けては、まちなかに活気を生み出すような魅力ある店舗を駅東・駅西・本陣エリアで充実させる必要がある。そこで、中心市街地内の店舗の充実度を測るための評価指標として、営業店舗数を設定する。

② 目標数値の設定

中心市街地内各エリアの営業店舗数は前期計画期間中に事業実施をすることにより営業店舗を増やしてきたものの、過去6年間以下のように推移している。駅東エリアでは夜型店舗の台頭等により増加傾向にあるものの、駅西・本陣エリアでは横ばいである。



中心市街地内各エリアの営業店舗数

このことから、本計画では、2017（平成29）年度基準692店舗から、各事業の実施により営業店舗数の増加を目指す。

| 事業 | 算定内容 | 実施効果 |
|----------------------|---|-------|
| (ア) 北中西・栄町地区市街地再開発事業 | 駅東エリアで行う北中西・栄町地区市街地再開発事業では、2020年の竣工予定となっており、1階部分に店舗を誘致する計画で、その区画数は32区画となっている。複数区画を使用して出店する事業者が7店舗程度想定されるため、事業実施による増加分として25店舗が見込まれる。 | 25 店舗 |
| (イ) 魅力店舗誘致事業 | 中心市街地全体で、市民ニーズの高い業種・業態の店舗誘致を図る魅力店舗誘致事業を実施する。本事業は前期計画からの | 5 店舗 |

| | | |
|--|---|-------------|
| | 継続事業であるが、中心市街地公共空間賑わい創出事業で飲食ブースを出した出店者から、草津まちづくり株式会社へ物件問い合わせが増加しているなど、中心市街地エリアへの出店機運も高まっていることから、過去（2014（平成26）年度～2017（平成29）年度の実績（3店舗）以上の効果を見込み、計画期間中5店舗の増加を図る。 | |
| (ウ) （仮称）市民総合交流センタープロムナード利活用促進事業 | （仮称）市民総合交流センターの公共空間地において、商店街とのタイアップなど民間を主体としたイベント実施などを実施することによって、店舗誘致につなげることによって、計画期間中に3店舗の増加を目指す。 | 3店舗 |
| (エ) 東海道・草津宿テナントミックス事業 | 東海道・草津宿周辺で草津まちづくり会社によるテナントミックス事業を実施することにより、過去（2015（平成27）年度～2017（平成29）年度の実績（2店舗）以上の効果を見込み、計画期間中3店舗の増加を図る。 | 3店舗 |
| (オ) 草津小市 | 本陣エリアで上質な生活を演出するマルシェやコンサートを実施し、エリア内の魅力を広めることで出店意欲を促し、計画期間中3店舗の増加を図る。 | 3店舗 |
| (カ) 中心市街地情報発信事業 | 「草津まち歩き新聞」などの発行により、中心市街地内の情報を発信することにより、店舗営業を行うエリアとしての魅力も訴求していく。計画期間中2店舗の増加を図る。 | 2店舗 |
| (キ) 宿場街道景観形成事業 | 東海道・中山道沿いに並ぶ建物・工作物等の修景整備に対して補助を行うことで、エリアのまちなみに合った店舗の出店につなげる。計画期間中2店舗の増加を図る。 | 2店舗 |
| その他の効果が見込まれる事業 ○（仮称）市民総合交流センター整備事業 ○東海道草津宿本陣通り景観重点地区形成事業 ○東海道沿道無電柱化事業 ○東海道草津宿拠点整備事業 | | |
| 事業実施による増加分 (ア) 25店舗 + (イ) 5店舗 + (ウ) 3店舗 + (エ) 3店舗 + (オ) 3店舗 + (カ) 2店舗 + (キ) 2店舗 = 43店舗 | | 増加分 43店舗 |

<数値目標>

2017（平成29）年基準値 692店舗 + 増加を見込む分 43店舗 = 735店舗

【令和6年3月変更時の状況】

令和4年度フォローアップでは、目標指標3「営業店舗数 735 店舗」の目標値に対し、最新値 729 店舗の状況であり、駅東・駅西エリアの商業ビルのテナントの増加や自宅兼店舗として新たに出店する事業者などにより、基準値は上回ったが、目標値の達成には至っていない状況である。今後、東海道草津宿拠点整備事業を実施し、本陣エリアに新しい人の流れを生み出し、魅力的な店舗を誘致しやすい環境を整えることで、目標指標3の達成を目指す。

[4] フォローアップの時期及び方法

数値目標のフォローアップについては、まず計画期間の毎年度の終了後に目標指標の現状値や事業の進捗状況を把握し、達成状況を把握する。また、達成状況に応じて、事業の追加や内容変更など目標達成に向けた対策を講じる。

(1) 歩行者通行量（休日）

中心市街地エリア内の16地点で実施する草津市歩行者・自転車通行量調査の平日と休日（主に8月）調査結果のうち、休日の歩行者通行量の8地点の結果を活用し、フォローアップを行う。

(2) にぎわい創出イベント参加者数

主催者が提供するイベント参加者数の結果を活用し、フォローアップを行う。

(3) 健幸・観光・交流施設の利用者数

対象8施設のそれぞれで計測する利用者数の結果を活用し、フォローアップを行う。

(4) 営業店舗数

市職員が毎年10～12月に実施する「空き店舗調査」のうち、営業店舗数の結果を活用し、フォローアップを行う。